

科目名	コンピューター	開講時期	2年 後期
担当講師	黒岩 巳恵子	区分	一般
授業の方法	演習	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ビジネス社会で活用されているアプリケーションソフトの学習を通して、パソコン操作の基礎・基本を修得する
到達目標	Word・Excelを使い、ビジネス文書・レジュメ・POP・売上集計等、卒業後必要と思われる様々な文書の作成法を修得する

授業計画

1	Windowsの基礎知識
2	Wordの基礎知識
3	Word入門
4	Word入門
5	Wordの活用
6	Wordの活用
7	Wordの活用
8	Wordの活用
9	Wordの活用
10	Excelの基礎知識
11	Excel入門
12	Excel入門
13	Excelの活用
14	Excelの活用
15	後期のまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	30時間でマスター Word&Excel2016 (実教出版)	
履修にあたっての注意		

科目名	登録販売者入門	開講時期	1年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者制度やセルフメディケーション、ドラッグストア業界の基礎知識や販売戦略、接客マナー、医薬品販売の基礎知識など。パワーポイント基礎。
到達目標	登録販売者の制度や役割、活躍の場について理解し、セルフメディケーション推進や登録販売者のあり方について説明できるようにする。

授業計画

1	登録販売者についての基本的な知識
2	ドラッグストアについての基本的な知識
3	セルフメディケーションについての基本的な知識
4	ドラッグストアでの販売戦略について
5	プライベートブランド商品 ドラッグストア業界の現状
6	登録販売者として知っておくべき疾患
7	登録販売者を目指すための現場での働き方
8	医薬品接客の基本的な知識、マナー
9	栄養ドリンクの基礎知識、試飲会の仕方
10	業界研究、競合店調査について
11	ドラッグストアの業界研究 グループワーク（パワーポイント作成）
12	ドラッグストアの業界研究 グループワーク（パワーポイント作成）
13	ドラッグストアの業界研究 グループワーク（パワーポイント作成）
14	ドラッグストアの業界研究 グループワーク（パワーポイント作成）
15	ドラッグストアの業界研究発表（パワーポイント）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	登録販売者入門	開講時期	1年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	ドラッグストアでの医薬品販売、頭痛や疲れに対する対応の仕方について。また、パワーポイントの初歩的な使い方やプレゼンの仕方なども併せて学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 登録販売者としての一部接客ができるように自信をつける 身近な不調として頭痛や疲れへの初期対応ができるようにする

授業計画

1	ドラッグストア等で登録販売者に求められること
2	栄養ドリンクについて 医薬品、医薬部外品、清涼飲料水
3	カフェインについて 作用と副作用
4	エナジードリンクについて カフェインの過剰摂取の危険性について
5	栄養ドリンクに含まれるビタミンについて ビタミン主製剤について
6	頭痛について 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛など
7	様々な頭痛への対応 解熱鎮痛薬の基礎知識
8	解熱鎮痛の主成分や補助成分について
9	様々な頭痛への対応 解熱鎮痛薬の基礎知識
10	解熱鎮痛の主成分や補助成分について
11	登録販売者に関するプレゼンテーション 資料作成
12	登録販売者に関するプレゼンテーション 資料作成
13	登録販売者に関するプレゼンテーション 資料作成
14	登録販売者に関するプレゼンテーション 発表
15	登録販売者に関するプレゼンテーション 発表

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	登録販売者の責務	開講時期	2年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者試験範囲外の医療従事者として知っておくべき内容。子ども、高齢者、女性特有の生理現象や対応。緊急時の対応方法や東洋医学など。
到達目標	登録販売者として、子供や高齢者、女性特有な不調も考慮しながら対応ができるようにする。また、様々な相談や緊急時などの対応ができるよう自信をつける。

授業計画

1	オリエンテーション 登録販売者とセルフメディケーション
2	妊娠・出産・育児 避妊薬、妊娠検査薬、妊娠中の栄養や病気
3	妊娠時の生理機能の変化と薬効 妊婦・授乳婦に注意が必要な医薬品
4	補完・代替医療 西洋医学と東洋医学 アーユルヴェーダ
5	アロマセラピー・ハーブ療法・エステティック・カラーセラピー
6	遠赤外線療法・気功・クレイセラピー・カイロプラクティック・伝承療法
7	介護 介護の基礎知識、高齢者の特徴、認知症、褥瘡
8	リハビリテーション 理学・作業・言語療法、脳卒中、関節リウマチ
9	高齢者の生理機能と薬効 小児の生理機能と薬効
10	応急処置 AED使用の手順、心肺蘇生法の基本、救急車の呼び方、トリアージ
11	応急処置 外傷の種類と応急処置、止血法、衛生用品
12	応急処置 吐血と喀血、咬傷、感染症、アナフィラキシーショック
13	応急処置 やけどの種類と処置、溺水の対応と処置
14	こころとからだ トランスジェンダーと性同一性障害
15	こころに関係する病気 心身症、うつ病、摂食障害、不眠症、PTSD

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	登録販売者の責務	開講時期	2年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者試験合格後の登録方法と外部研修について。社会人になる前の予備知識。セルフメディケーションに関する情報提供。
到達目標	登録販売者として、自信をもって社会人になれるようにする。また、セルフメディケーション推進にしっかり貢献できるよう自分の情報量を増やす。

授業計画

1	登録販売者試験合格後から販売従事登録証の発行までの流れ
2	登録販売者研修について 外部研修の受講義務と必要性
3	アルバイトと社員の違い 医薬品担当と化粧品担当について
4	登録販売者としての責任 医薬品副作用救済制度
5	クレーム対応について クレームとクレーマーへの対応方法
6	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
7	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
8	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
9	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
10	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
11	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成
12	セルフメディケーションに関するプレゼン 発表
13	セルフメディケーションに関するプレゼン 発表
14	セルフメディケーションに関するプレゼン 評価と感想
15	セルフメディケーション推進と今後の目標

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	人材育成論	開講時期	2年 前期
担当講師	作能 弘光	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	企業で働く上で業務を円滑に進めていくためにはいわゆる「常識」や「教養」を必要とされる場面が数多くあります。特に接客業においてはお客様との会話をスムーズに行うためにも常識的な知識が要求されることになります。また企業では採用試験の際に一般教養の試験を課し、面接に加え選抜や可否の参考にしています。授業では国語・歴史・地理・政経・数学・英語・時事問題を中心に学びます。
到達目標	一般的な常識や一般教養の基礎を習得することを目標とします。

授業計画

1	一般教養（15） 国語⑧、地理③
2	一般教養（16） 国語⑨、数学⑨
3	一般教養（17） 国語⑩、歴史③
4	一般教養（18） 英語④、数学⑩
5	一般教養（19） 文章表現
6	一般教養（20） 数的推理②
7	一般教養（21） 数的推理③
8	一般教養（22） 政治経済③、政治経済④
9	一般教養（23） 歴史④、地理④
10	一般教養（24） 英語⑤、英語⑥
11	一般教養（25） 現代社会
12	一般教養（26） 時事問題
13	一般教養（27） 数学⑪、数学⑫
14	一般教養（28） 判断推理①
15	一般教養（29） 判断推理②

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	復習は特に大事ですので注力して下さい。また時事問題には監視を持ち特に業界との関連性を意識しておいて下さい。	
使用教材	就職筆記試験問題集（株式会社ウィネット編）。時事問題については新聞等を参考資料として使用。	
履修にあたっての注意	授業を欠席した際には必ずその授業で行われた問題を解き、その後指導を仰ぐようにして下さい。	

科目名	ビジネスマナー	開講時期	1年 前期
担当講師	緑川 恵	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ビジネスマナーに対する理解を深めるとともに社会人としての振る舞いを念頭において、より実践的なスキルを身につけてもらいます。
到達目標	インターンシップにおいて必要なビジネスマナー、社会人としての考え方や振る舞いの習得を目標とします。

授業計画

1	ビジネスマナーの基本、お辞儀、挨拶について
2	働く意識、コミュニケーション、コンプライアンス、CS
3	身だしなみ、敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）
4	敬語の使い分け、二重敬語、誤用
5	電話対応①（対応用語、受け方、かけ方）
6	電話対応②（ロールプレイング）
7	電話対応③（伝言メモの作成）
8	来客対応（対応用語、案内、茶菓の接待）
9	名刺交換のマナー、紹介のマナー
10	ビジネス文書① 社内文書、社外文書
11	ビジネス文書② 社外文書の構成（前文、主文、末文）、社交文
12	慶事のマナー（結婚式のマナー、賀寿、正礼装）
13	贈答のマナー、弔事のマナー
14	お見舞いのマナー、食事のマナー
15	後期授業のまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	社会人にとってコミュニケーション能力は重要です。学校、アルバイト先などにおいてもコミュニケーション能力の向上に努力してください。また、普段から新聞、ニュースにも目を向けてください。	
使用教材	ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）	
履修にあたっての注意	グループワークやロールプレイングには積極的に取り組んでください。テキストの理解に加え実践することでスキルが身につけていきます。	

科目名	ビジネスマナー	開講時期	2年 後期
担当講師	緑川 恵	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ビジネスマナーに対する理解を深めるとともに、社会人としての振る舞いを念頭において、より実践的なスキルを身につけてもらいます。
到達目標	社会人としての考え方や振る舞いを学び、入社後即戦力となるスキルの習得を目標とします。

授業計画

1	ビジネスマナーの基本、お辞儀、挨拶について
2	働く意識、コミュニケーション、コンプライアンス、CS
3	身だしなみ、敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）
4	敬語の使い分け、二重敬語、誤用
5	電話対応①（対応用語、受け方、かけ方）
6	電話対応②（ロールプレイング）
7	電話対応③（伝言メモの作成）
8	来客対応（対応用語、案内、茶菓の接待）
9	名刺交換のマナー、紹介のマナー
10	ビジネス文書① 社内文書、社外文書
11	ビジネス文書② 社外文書の構成（前文、主文、末文）、社交文
12	慶事のマナー（結婚式のマナー、賀寿、正礼装）
13	贈答のマナー、弔事のマナー
14	お見舞いのマナー、食事のマナー
15	後期授業のまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	社会人にとってコミュニケーション能力は重要です。学校、アルバイト先などにおいてもコミュニケーション能力の向上に努力してください。また、普段から新聞、ニュースにも目を向けてください。	
使用教材	ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）	
履修にあたっての注意	グループワークやロールプレイングには積極的に取り組んでください。テキストの理解に加え実践することでスキルが身につけていきます。	

科目名	販売士	開講時期	2年 前期
担当講師	武井 宣之	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。
到達目標	小売業の様々な類型とマーチャダイジングの基礎やストアオペレーションの基礎を学び、販売に役立てる。

授業計画

1	小売業とは何か 流通機構における小売業の役割
2	主要商品別流通経路の基礎知識①・②
3	流通経路における小売業のポジショニング、卸売業のポジショニング
4	製造業の流通経路政策の基礎知識 組織小売業の種類と特徴
5	販売形態の種類と特徴 小売業の基本的役割
6	専門店 百貨店 総合品揃えスーパー（GMS）
7	スーパーマーケット（SM）・スーパーセンター（SuC） ホームセンター（HC）
8	ドラッグストア（DgS） コンビニエンスストア（CVS）
9	チェーンストアとチェーンオペレーション 中小小売業の役割
10	商店街 ショッピングセンター
11	商品とは 商品の分類と本体要素 マーチャダイジングの基本
12	CVSのマーチャダイジングの基本 商品計画の基礎知識 棚割とディスプレイ
13	仕入計画の基礎知識 発注の基本 物流の基礎知識
14	在庫管理の基本 POSシステムの仕組み バーコードの仕組み
15	価格の設定要因と価格政策 売価決定計算法

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学	
使用教材	リテールマーケティング テキスト&問題集	
履修にあたっての注意		

科目名	販売士	開講時期	2年 後期
担当講師	武井 宣之	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。
到達目標	小売業の様々な類型とマーチャダイジングの基礎やストアオペレーションの基礎を学び、販売に役立てる。

授業計画

1	利益の増やし方 発注の仕組み 荷受け・検収・補充の基礎知識
2	売場のチェックポイント ミーティングのやり方 包装とは何か
3	購買につなげるためのディスプレイ パターンごとのメリット・デメリット
4	購買までの顧客心理の変化 変化に対応した接客販売技術 レジ業務と推奨販売
5	小売業のマーケティング 顧客満足経営とは 顧客満足経営の新原則
6	FSPの考え方 FSPの狙いと運用 POPプライスカードの特徴
7	商圈・立地条件の考え方 競争店調査の考え方 売場づくりの考え方
8	販売員の目的と役割 接客マナーと対応
9	小売業に関する主な法規 販売活動に関する主な法規 商品に関する主な法規
10	消費者基本法と個人情報保護法 環境問題と消費政策
11	販売事務の基本 計数管理の基本
12	決算について 利益計算の方法
13	人間関係の基本 コミュニケーションについて
14	金券類と代金支払い方法について 店舗施設の管理について
15	まとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学	
使用教材	リテールマーケティング テキスト & 問題集	
履修にあたっての注意		

科目名	ハーブと健康	開講時期	2年 前期
担当講師	飴谷 有希子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	生活の中で手に入りやすい20種類のハーブを中心に、ハーブの安全性、有用性、使い方などを学ぶ。また、精油の基礎知識と使用法について学ぶ。
到達目標	①ハーブや精油を安全に使用するための基礎知識を説明できる。 ②ハーブやアロマテラピーを生活の中で活用することができる。

授業計画

1	ハーブ基礎知識（安全に使用するため）、ティーの淹れ方、ハーブ各論（マロブール）
2	ハーブ活用法（コーディアル）、ハーブ各論（ハイビスカス、ローズヒップ）
3	ハーブ活用法（チンキ剤）、ハーブ各論（エキナセア、ラズベリーリーフ）
4	ハーブ活用法（スチーム）、ハーブ各論（エルダーフラワー、カレンデュラ）
5	ハーブ活用法（ハーブパウダー）、ハーブ各論（セージ、Gカモミール）
6	ハーブ活用法（化粧水）、ハーブ各論（セントジョーンズワート、リンデン）
7	アロマテラピー基礎知識（安全に使用するため）、ハーブ各論（ダンディライオン）
8	アロマテラピー基礎知識（柑橘系精油）、ハーブ各論（ネトル、ローズ）
9	アロマテラピー活用法（スプレー、芳香浴）、ハーブ各論（パッションフラワー、ミント）
10	ハーブ活用法（部分浴）、ハーブ各論（マルベリー、ラベンダー）
11	ハーブ活用法（ブレンド）、ハーブ各論（ローズマリー、マテ）
12	ハーブ活用法（料理）、ハーブ各論（レモンバーベナ、レモンバーム）
13	ハーブや精油を安全に使用するためには
14	ハーブ活用法（浸出油）、ブレンドティー
15	ハーブ活用法（軟膏）、ソフトハーブティー

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	基礎からよくわかるメディカルハーブLESSON 監修 佐々木薫 河出書房新社	
履修にあたっての注意	アレルギーや、皮膚疾患のある学生は申し出ること	

科目名	体育	開講時期	2年 前期
担当講師	松本 晴美	区分	実務
授業の方法	実技	単位数：授業時数	1/2 15時間

学修内容	グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケ、テニス等）
到達目標	体力向上はもとより、スポーツを通じて円滑なコミュニケーションをはかる

授業計画

1	グループ別による選択種目の実施
2	グループ別による選択種目の実施※準備体操・整理体操は全員行わせる。
3	グループ別による選択種目の実施※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。
4	グループ別による選択種目の実施※選択種目 ①バスケットボール ②テニス
5	グループ別による選択種目の実施 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー
6	グループ別による選択種目の実施 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール
7	グループ別による選択種目の実施 ⑦バドミントン ⑧その他
8	グループ別による選択種目の実施 ※人数により実施しない種目もある。
9	グループ別による選択種目の実施
10	グループ別による選択種目の実施
11	グループ別による選択種目の実施
12	グループ別による選択種目の実施
13	グループ別による選択種目の実施
14	グループ別による選択種目の実施
15	グループ別による選択種目の実施

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		
履修にあたっての注意		

科目名	体育	開講時期	2年 後期
担当講師	松本 晴美	区分	実務
授業の方法	実技	単位数：授業時数	1/2 15時間

学修内容	グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケ、テニス等）
到達目標	体力向上はもとより、スポーツを通じて円滑なコミュニケーションをはかる

授業計画

1	グループ別による選択種目の実施
2	グループ別による選択種目の実施※準備体操・整理体操は全員行わせる。
3	グループ別による選択種目の実施※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。
4	グループ別による選択種目の実施※選択種目 ①バスケットボール ②テニス
5	グループ別による選択種目の実施 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー
6	グループ別による選択種目の実施 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール
7	グループ別による選択種目の実施 ⑦バドミントン ⑧その他
8	グループ別による選択種目の実施 ※人数により実施しない種目もある。
9	グループ別による選択種目の実施
10	グループ別による選択種目の実施
11	グループ別による選択種目の実施
12	グループ別による選択種目の実施
13	グループ別による選択種目の実施
14	グループ別による選択種目の実施
15	グループ別による選択種目の実施

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		
履修にあたっての注意		

科目名	体育	開講時期	1年 前期
担当講師	松本 晴美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	「講義」健康づくりのための運動 「実技」グループ別による選択種目の実施 (バレーボール、サッカー、バスケット、テニス等)
到達目標	健康な日常生活をおくるための運動の重要性を理解し、実技授業で生涯スポーツへの関心と親しみを深める

授業計画

1	実技実施のためのオリエンテーション（授業の説明、注意事項、アンケート）
2	「実技」グループ別による選択種目の実施
3	「実技」グループ別による選択種目の実施 ※準備体操・整理体操は全員行わせる。
4	「実技」グループ別による選択種目の実施※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。
5	「実技」グループ別による選択種目の実施 ※選択種目 ①バスケットボール ②テニス
6	「実技」グループ別による選択種目の実施③ウォーキング・ランニング ④サッカー
7	「実技」グループ別による選択種目の実施 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール
8	「実技」グループ別による選択種目の実施 ⑦バドミントン ⑧その他
9	「実技」グループ別による選択種目の実施 ※人数により実施しない種目もある。
10	「講義」 健康づくりのための身体活動基準
11	「講義」 健康づくりのための身体活動基準 生活習慣病と身体活動
12	「講義」 健康づくりのための身体活動基準 生活習慣病に効果的な運動（ウォーキング）
13	「講義」 健康づくりのための身体活動基準（筋肉強化運動）
14	「講義」 健康づくりのための身体活動基準 ストレッチとセルフマッサージ
15	「講義」 健康づくりのための身体活動基準 まとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		
履修にあたっての注意		

科目名	メンタルヘルス	開講時期	2年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ストレスとメンタルヘルス、心のセルフケアに関する内容を主とし、メンタルヘルス不調の種類や対処法、ストレス緩和法について学習する。
到達目標	メンタルヘルス不調者が多い現代社会において、自分自身の心のケアや強いストレスへの対処、また、病気への早期発見ができるようにする。

授業計画

1	メンタルヘルス不調とは メンタルヘルス不調者が多い背景
2	メンタルヘルスケアの意義と重要性 労働者のストレス 心の健康づくり
3	ストレスの基礎知識 ストレスの種類と健康被害のメカニズム
4	メンタルヘルスの基礎知識 メンタルヘルス不調の種類と対応 1
5	メンタルヘルスの基礎知識 メンタルヘルス不調の種類と対応 2
6	心の健康問題の正しい態度 セルフケアの重要性
7	過重労働の健康影響メカニズム 時間外労働と過労死、労災
8	自己保健義務 安全配慮義務 労働契約法
9	ストレスや不調への早期対処の重要性 職業性ストレス簡易調査
10	ストレスへの気づき方と対処 個人差 リスク要因 職場以外のストレス
11	ストレスへの気づき方と対処 身体・行動・心理面の変化
12	ストレスの基礎知識 ストレスの種類と健康被害のメカニズム
13	ストレス対処法、メンタルヘルス不調の治療について
14	思考のゆがみ 心理療法、認知療法、認知行動療法
15	ストレスマネジメントワーク

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	メンタルヘルスマネジメントⅢ種セルフケアコーステキスト	
履修にあたっての注意		

科目名	スキンケア	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	皮膚の構造を理解し、健康的な肌を維持するための知識を学ぶ。
到達目標	正しいスキンケアの方法を理解し、肌の状態の応じた商品の提案やアドバイスができるようにする。

授業計画

1	皮膚の構造（表皮・真皮・皮下組織）
2	皮膚の役割と機能（表皮・真皮・皮下組織）
3	皮膚の機能（ターンオーバー）
4	肌トラブル（外因的要因と内因的要因）
5	肌トラブルの対処法・手入れ（紫外線・乾燥）
6	肌トラブル対処法・手入れ（しわ・たるみ・くま等）
7	化粧品の成り立ち（抽出油・みつろうを用いたリップクリーム作り）
8	スキンケア化粧品の種類・用途・特性
9	化粧品の原料と基礎知識（基材・添加物・訴求成分）
10	化粧品の成り立ち（シーソルト・ドライハーブを用いたバスソルト）
11	毛髪・頭皮の構造・ヘアケア化粧品
12	ヘアケア化粧品（機能・成分）
13	化粧品に関するルール
14	化粧品の成り立ち（モンモリオナイトを用いたクレイパック）
15	化粧品の成り立ち（石けん素地を用いた石けん）

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、スキンケアに関する情報に関心を持つ。	
使用教材	日本化粧品検定2.3級対策テキスト	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	POPコピーライター	開講時期	2年 後期
担当講師	善養寺 良子	区分	実務
授業の方法	演習	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	広告に関する基礎知識を学び、POPの目的とその役割を理解する。また実習を通して、販売促進効果の高いPOP作成技術の習得に挑む。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●広告に対する関心度を高める。 ●各々の個性を生かしたPOP作成技術を身につける。 ●社会のあらゆる場面で利用できる情報整理スキルを身につける。

授業計画

1	自己紹介／POPの基礎知識①
2	POPの基礎知識②／【実習01】 ペンの使い方・いろいろな線
3	文字の種類／【実習02】 いろいろな文字の書き方
4	【実習03】 デザイン文字
5	【実習04】 イラスト
6	【実習05】 模写
7	キャッチコピーの作り方／【実習06】 キャッチコピー
8	レイアウトのコツ／【実習07】 レイアウト
9	資料収集と情報整理／【実習08】 資料収集と情報整理
10	【実習09】 実際の商品でPOP広告①
11	【実習09】 実際の商品でPOP広告②
12	【実習09】 実際の商品でPOP広告③
13	【実習09】 実際の商品でPOP広告④
14	【実習15】 登録販売者
15	【実習16】 自由課題

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する

授業時間外の学習	個々でドラッグストアへ行った際にPOP広告をよく観察してみる。
----------	---------------------------------

使用教材	【個人】 鉛筆orシャーペン・消しゴム・定規・はさみ・のり 【学校】 ポスカ・色画用紙・新聞紙
------	---

履修にあたっての注意	
------------	--

科目名	販売実務演習	開講時期	1年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	実務
授業の方法	演習	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	健康やセルフケアに関わる多様な商品についてグループディスカッション・発表をして理解を深める。校外実務実習にむけ、ドラッグストア業界の専門性を知る。
到達目標	情報を収集・集約し、商品の用途や機能を正しく理解する。グループワークで自らの役割を理解し、協調性・コミュニケーション等の接客に必要な能力を身に付ける。

授業計画

1	オリエンテーション（グループ学習について・学修の進め方と目的）
2	特定保健用食品について（概要/グループワーク）
3	特定保健用食品について（発表/ディスカッション）
4	特別用途食品(病者用食品)について（概要/グループワーク）
5	特別用途食品(病者用食品)について（発表/ディスカッション）
6	機能性表示食品について（概要/グループワーク）
7	機能性表示食品について（発表/ディスカッション）
8	栄養機能食品について（概要/グループワーク）
9	栄養機能食品について（発表/ディスカッション）
10	アイケア商品について（概要/グループワーク）
11	アイケア商品について（発表/ディスカッション）
12	オーラルケア商品について（概要/グループワーク）
13	オーラルケア商品について（発表/ディスカッション）
14	実技試験・レポート作成
15	実技試験・レポート作成

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	プリント	
履修にあたっての注意	グループ学習では、協調性のある言動を心掛ける。	

科目名	接客中国語	開講時期	2年 後期
担当講師	張 渭涛	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	この講義は医薬品販売と薬剤師調剤における「医薬接客中国語」を日本語で教授して習う授業である。医薬関係の現場ニーズに基づきコミュニケーション情景の形にして中国語発音と文法概説を始め、薬局と病院での主な実用表現を集中的に学び習う。
到達目標	十五回の内に中国語の発音を覚え基本文法を理解する上に、薬局と病院でのコミュニケーションにおける日常表現を身に付けることを目指す。

授業計画

1	中国語の発音Ⅰ：中国語発音の特徴、声調と母音、基本語順、日常会話、医薬表現
2	中国語の発音Ⅱ：声調と母音の復習、子音と鼻母音、基本語順、日常会話、医薬表現
3	中国語の発音Ⅲ：子音と鼻母音の復習、音節と発音ルール、品詞と語順、会話、表現
4	中国語の発音Ⅳ：総復習、発音テスト、基本語順と品詞の復習、会話、表現、練習
5	中国語の基本文法：簡体字、品詞と語順、基本文型、主要文法、会話、表現、練習
6	薬局表現1：受付対応と説明文書カバー、効果・諸注意、応用会話1、文法1、練習
7	薬局表現2：復習、飲み薬と水薬、嗽薬、貼り薬、応用会話2、文法2、練習
8	薬局表現3：復習、塗り薬、スプレー薬、坐薬、点眼薬、応用会話3、文法3、練習
9	薬局表現4：点耳薬、点鼻薬、頓服薬、応用会話4、文法4、練習、薬局表現の総復習
10	病院表現1：復習、病院の受付、外来、会計、応用会話5、文法5、文型1、練習
11	病院表現2：復習、薬局、入院、朝の回診、人体の名前、応用会話6、文型2、練習
12	病院表現3：復習、チェックリスト、数の数え方、応用会話7、文型3、練習
13	病院表現4：時間とその他、応用会話8、文型4、練習、病院表現の総復習、練習
14	まとめ：薬局と病院の総復習、文法と文型の総復習、期末試験の説明、応用会話9
15	試験と総評：試験総評、薬局病院表現の質疑回答、文法文型の質疑回答、自由交流

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	中国語ウィーチャット（WeChat）でオンライン質問と回答、自由交流。	
使用教材	授業中に配布。	
履修にあたっての注意	15回集中的な実用語学の講義のため、諦めずに毎日の内容を繰り返して覚える工夫が必要となる。	

科目名	校外実務実習	開講時期	1年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	実習	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	・接客マナー・接客ロールプレイング・実習生としての心構え ・コミュニケーション・履歴書の書き方・面接練習
到達目標	後期の校外実務実習に向け、ドラッグストアでの実習や接客のマナーを身につける。また、希望の実習先に採用されるよう自信を持って面接に臨める態勢を整える。

授業計画

1	オリエンテーション コミュニケーション基礎
2	コミュニケーション アイスブレイク グループディスカッション
3	ドラッグストアの実際 レジや接客、クレームについて（DVD学習）
4	接客業に求められること 接客マナー、発声練習（接客7大用語）
5	ドラッグストア業界について 各社の違い、強み
6	ドラッグストアの一般業務について 基本的な業務内容（ロールプレイング）
7	実習先選択 アンケート 実習開始までの流れ、実習マナー
8	履歴書の書き方、マナー 実習生として求められる人材
9	履歴書作成
10	面接前のマナーについて 第一印象 身だしなみチェック
11	面接練習
12	店頭対応の心構え 接客マナー 挨拶 接客基本用語
13	入店時、店頭活動中、退店時のマナー クレーム対応（ロールプレイング）
14	販売テクニック お客様との距離感 表情、動作（ロールプレイング）
15	実習前の心構え 接客マナーの確認（ロールプレイング）

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	医薬品概論	開講時期	1年 前期
担当講師	磯野 淳一	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①医薬品、副作用、情報の入手と提供の概要 ②医薬品の効果、副作用に影響を与える要因 ③適切な医薬品選択と受診勧奨の概要 ④薬害の歴史
到達目標	①医薬品の本質、効き目や安全性に影響を与える要因等について理解する ②購入者等から医薬品を使用しても症状が改善しないなどの相談があった場合には、医療機関の受診を勧奨するなど、適切な助言ができる ③薬害の歴史を理解し、医薬品の本質を踏まえた適切な販売等に努めることができる

授業計画

1	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは
2	I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 クスリとは 薬物の体内動態（薬動力学）を学ぶ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品 セルフメディケーション
3	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用
4	3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ 抗ヒスタミン薬、アルコールと薬の関係 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者
5	4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 d)母乳を与える女性（授乳婦）e)医療機関で治療を受けている人等
6	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
7	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
8	2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 b)スモン訴訟 c)HIV訴訟 d)CJD訴訟
9	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは 登録販売者と薬剤師の違い I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 処方薬と市販薬の違い
10	OTC医薬品とは スイッチOTC医薬品とは セルフメディケーション 2) 医薬品のリスク評価 セルフメディケーション この薬、たくさん飲めば
11	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用 3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ アルコールと薬の関係
12	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 妊婦が避けるべき成分 d)母乳を与える女性（授乳婦）
13	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
14	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
15	販売時のコミュニケーション 第1章 医薬品概論 の振り返り

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻 およびpower point資料	
履修にあたっての注意		

科目名	人体学	開講時期	1年 前期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	脳や神経系、皮膚・骨・関節・筋肉などの運動器官、目・鼻・耳などの感覚器官、口腔・胃などの内臓器官について構造と働きを理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。

授業計画

1	はじめに 年間の授業計画について 生体の構成・細胞について
2	I 人体の構造と働き 4 脳や神経系の働き 1) 中枢神経系
3	2) 末梢神経系
4	<神経組織> 1.神経細胞、2.神経線維、3.シナプス、4.神経による情報伝達、5.神経伝達物質
5	3 皮膚、骨・関節、筋肉などの運動器官 1) 外皮系
6	2) 骨格系
7	2) 骨格系,関節
8	3) 筋組織
9	2.目、鼻、耳などの感覚器官 1) 目 (a)眼球
10	(b)眼瞼、結膜、涙器、眼筋、2) 鼻 (a)鼻腔 (b)副鼻腔
11	3) 耳 (a)外耳 (b)中耳、(c)内耳
12	1.胃・腸、肝臓、肺、心臓、腎臓などの内臓器官 1) 消化器系 (a)口腔 ①歯
13	②舌 ③唾液腺 (b)咽頭、食道
14	(c)胃
15	前期試験答案返却、解説等、(d)小腸

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント
履修にあたっての注意	

科目名	人体学	開講時期	1年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小腸、膵臓、胆嚢、肝臓、大腸などの内臓器官、呼吸器系、循環器系、泌尿器系および内分泌系 について構造と働きを理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。

授業計画

1	(d)小腸、(e)膵臓
2	(f)胆嚢、肝臓、
3	(g)大腸
4	(h)肛門 2) 呼吸器系 (a)鼻腔
5	(b)咽頭(c)喉頭、気管、気管支、(d)肺
6	3) 循環器系 (a)心臓、(b)血管系（動脈）
7	(b)血管系（静脈、毛細血管）、(c)血液 ①血漿
8	②血球（赤血球、白血球、血小板）、
9	(d)脾臓、(e)リンパ系（リンパ液、リンパ管、リンパ節）
10	4) 泌尿器系 (a)腎臓
11	副腎、ホルモン
12	(b)尿路（膀胱、尿道）
13	まとめ
14	後期試験答案返却、解説等
15	性ホルモンについて

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント	
履修にあたっての注意		

科目名	薬剤学	開講時期	1年 前期
担当講師	大西 可奈子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①様々な薬の剤型と使用方法を学ぶ。②薬の作用、薬が体の中に入る仕組み、薬物動態を学ぶ ③副作用を正しく理解する。薬により起こる副作用の仕組み、症状を学び、早期発見早期対応できる知識を習得する。
到達目標	①様々なくすりの剤型と使用方法を理解することで、購入者等に適切な販売等に努めることができる。②薬の違いによる薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の違いを理解する。③副作用の種類を正しく理解できる。症状からみた主な副作用の特徴を正しく理解し、早期発見早期対応のための知識を身につける。

授業計画

1	登録販売者の役割。医薬品の基本的知識を学ぶ。
2	医薬品の基本的知識・定義と分類・リスク（総論）
3	薬が働く仕組み 全身作用と局所作用
4	薬が働く仕組み 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）
5	薬が働く仕組み 薬の用量と作用の関係（血中濃度曲線、用量反応曲線）
6	薬が働く仕組み 標的分子（受容体、酵素、トランスポーター）
7	薬が働く仕組み 医薬品の剤形と特徴
8	症状から見た主な副作用 総論（全身性作用・精神神経系作用・局所作用）
9	症状から見た主な副作用 各論【過敏症・皮膚】
10	症状から見た主な副作用 各論【肝臓・内分泌・血液】
11	症状から見た主な副作用 各論【精神・神経・消化器】
12	症状から見た主な副作用 各論【呼吸器・循環器】
13	症状から見た主な副作用 各論【腎臓・泌尿器・感覚器】
14	症状から見た主な副作用 薬の作用、副作用発現に影響する因子
15	復習と試験対策

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト（上巻）都道府県登録販売者試験過去問題集
履修にあたっての注意	

科目名	薬物学①	開講時期	1年 前期
担当講師	大西 可奈子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	(精神神経に作用する薬・呼吸器官に作用する薬・胃腸に作用する薬)の主な作用について学ぶ 各一般医薬品に含まれる有効成分の薬効や配合されている目的、注意すべき副作用について、学修する。 年齢の違いによる服用可否について学ぶ。
到達目標	①一般用医薬品の特徴、有効成分の薬効を理解し、その医薬品が配合されている目的を理解できる。 ②医薬品の副作用、相互作用について理解する。 ③服用年齢、受診勧奨について理解する。

授業計画

1	登録販売者の役割。医薬品の基本的知識を学ぶ。
2	精神神経に作用する薬について（かぜ薬）
3	精神神経に作用する薬について（解熱鎮痛薬）
4	精神神経に作用する薬について（催眠鎮静薬・眠気防止薬）
5	精神神経に作用する薬について（鎮暈薬・小児鎮静薬）
6	呼吸器官に作用する薬（鎮咳・去痰薬）
7	呼吸器官に作用する薬（口腔咽喉薬・含嗽薬）
8	胃腸に作用する薬（胃の薬）
9	胃腸に作用する薬（腸の薬）
10	胃腸に作用する薬（胃腸鎮痛鎮痙薬）
11	胃腸に作用する薬（浣腸薬）
12	胃腸に作用する薬（駆虫薬）
13	漢方処方製剤（精神神経・呼吸器官・胃腸に作用）
14	相互作用と受診勧奨
15	復習と試験対策

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト（下巻）都道府県登録販売者試験過去問題集
履修にあたっての注意	

科目名	薬物学①	開講時期	1年 後期
担当講師	大西 可奈子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	(精神神経に作用する薬・呼吸器官に作用する薬・胃腸に作用する薬)の主な作用について学ぶ 各一般医薬品に含まれる有効成分の薬効や配合されている目的、注意すべき副作用について、学修する。 年齢の違いによる服用可否について学ぶ。
到達目標	①一般用医薬品の特徴、有効成分の薬効を理解し、その医薬品が配合されている目的を理解できる。 ②医薬品の副作用、相互作用について理解する。 ③服用年齢、受診勧奨について理解する。

授業計画

1	登録販売者の役割。医薬品の基本的知識を学ぶ。
2	精神神経に作用する薬について（かぜ薬）
3	精神神経に作用する薬について（解熱鎮痛薬）
4	精神神経に作用する薬について（催眠鎮静薬・眠気防止薬）
5	精神神経に作用する薬について（鎮暈薬・小児鎮静薬）
6	呼吸器官に作用する薬（鎮咳・去痰薬）
7	呼吸器官に作用する薬（口腔咽喉薬・含嗽薬）
8	胃腸に作用する薬（胃の薬）
9	胃腸に作用する薬（腸の薬）
10	胃腸に作用する薬（胃腸鎮痛鎮痙薬）
11	胃腸に作用する薬（浣腸薬）
12	胃腸に作用する薬（駆虫薬）
13	漢方処方製剤（精神神経・呼吸器官・胃腸に作用）
14	相互作用と受診勧奨
15	復習と試験対策

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト（下巻）都道府県登録販売者試験過去問題集
履修にあたっての注意	

科目名	薬物学②	開講時期	1年 前期
担当講師	加藤 明子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	3 45時間

学修内容	疾患を通して人の体の仕組みと機能について理解し、医療に携わるものとして必要な医薬品や漢方薬に関する薬の作用や効能などの基礎知識を養うと共に、適切なアドバイスができる基礎知識を身に付ける。
到達目標	疾患を通して、身体の各器官がどのような仕組みで働いているかを学び、薬を通して薬が及ぼす作用や副作用・相互作用などについて理解する。また、購買者からの情報を正しく理解するために薬や基礎的な疾患について学び、登録販売者の業務に直接役立つ知識を身に付ける。

授業計画

1	心臓などの器官や血液に作用する薬【総論】 強心薬 ・ ミニテストの実施と解答
2	高コレステロール改善薬 ・ 貧血用薬（鉄製剤） ・ ミニテストの実施と解答
3	その他の循環器用薬 ・ 排泄に関わる部位に作用する薬【総論】
4	心臓などの器官や血液に作用する薬【復習】 問題の実施と解答・痔の薬
5	痔の薬 ・ ミニテストの解答 その他の泌尿器用薬
6	その他の泌尿器用薬 ・ 問題の実施と解答
7	婦人薬【総論】
8	婦人薬（適用対象となる体質・症状 代表的な配合成分等、主な副作用） ・ ミニテスト
9	婦人薬（適用対象となる体質・症状 代表的な配合成分等、主な副作用） ・ 問題の実施・解答
10	婦人薬 問題の実施・解答 総復習
11	内服アレルギー用薬【総論】
12	アレルギーの症状、薬が症状を抑える仕組み～相互作用・受診勧奨・ミニテスト
13	鼻に用いる薬（代表的な配合成分、主な副作用 相互作用、受診勧奨） ・ ミニテスト
14	鼻に用いる薬（代表的な配合成分、主な副作用 相互作用、受診勧奨） ・ ミニテスト
15	内服アレルギー用薬 ・ 問題の実施・解答 総復習

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	特になし	
使用教材	2022年度対応版 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト 下巻 登録販売者 U-CAN ・ ツムラ・クラシエ	
履修にあたっての注意		

科目名	薬物学②	開講時期	1年 後期
担当講師	加藤 明子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	疾患を通して人の体の仕組みと機能について理解し、医療に携わるものとして必要な医薬品や漢方薬に関する薬の作用や効能などの基礎知識を養うと共に、適切なアドバイスができる基礎知識を身に付ける。
到達目標	疾患を通して、身体の各器官がどのような仕組みで働いているかを学び、薬を通して薬が及ぼす作用や副作用・相互作用などについて理解する。また、購買者からの情報を正しく理解するために薬や基礎的な疾患について学び、登録販売者の業務に直接役立つ知識を身に付ける。

授業計画

1	アレルギーの症状、薬が症状を抑える仕組み
2	眼科用薬【総論】
3	眼科用薬 1) 2) ・ミニテスト
4	眼科用薬 3) 4) ・ミニテスト
5	眼科用薬 5) 6) ・ミニテスト
6	眼科用薬 総まとめ
7	皮膚に用いる薬【総論】
8	皮膚に用いる薬 1) 2) ・ミニテスト
9	皮膚に用いる薬 3) 4) ・ミニテスト
10	皮膚に用いる薬 5) 6) ・ミニテスト
11	皮膚に用いる薬 総まとめ
12	心臓などの器官や血液に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬
13	婦人薬・内服アレルギー用薬
14	鼻に用いる薬・眼科用薬
15	皮膚に用いる薬

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	特になし
使用教材	2022年度対応版 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト 下巻 登録販売者 U-CAN ・ ツムラ・クラシエ
履修にあたっての注意	

科目名	薬物学③	開講時期	1年 前期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	漢方の特徴・基本的な考え方、代表的な漢方処方製剤、適応となる症状・体質、代表的な生薬成分、歯痛・歯槽膿漏薬および禁煙補助剤並びに滋養強壮保健薬（ビタミン成分）の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。

授業計画

1	はじめに 年間の授業計画について ; XIV漢方処方製剤・生薬製剤 1漢方処方製剤
2	1) 漢方の特徴・基本的な考え方- 中医学の概要 -
3	2) 代表的な漢方処方製剤、適用となる症状・体質、主な副作用
4	3) 相互作用、受診勧奨、 2その他の生薬製剤 1) 代表的な生薬成分
5	1) 代表的な生薬成分、主な副作用 (a)~(h) 2) 相互作用、受診勧奨
6	XI歯や口中に用いる薬 1歯痛・歯槽膿漏用薬 1) 代表的な配合成分
7	2) 相互作用、受診勧奨
8	2口内炎用薬(外用薬) 1) 代表的な配合成分、主な副作用
9	XII禁煙補助剤 1) ニコチンに関する基礎知識
10	2) 主な副作用、相互作用、禁煙達成へのアドバイス・受診勧奨
11	XIII滋養強壮保健薬 1) 医薬品として扱われる保健薬 2) ビタミン、カルシウム、アミノ酸等の働き (a)ビタミン成分 ①ビタミンA ②ビタミンD
12	③ビタミンE ④ビタミンB1 、ビタミンK
13	⑤ビタミンB2 ⑥ビタミンB6
14	⑦ビタミンB12
15	⑧ビタミンC
16	前期試験答案返却、解説等、 ⑨その他(ナイアシン、ビタミンB5)

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント
履修にあたっての注意	

科目名	薬物学③	開講時期	1年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	滋養強壮保健薬（カルシウム成分、アミノ酸成分）、公衆衛生用薬、一般用検査薬の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。

授業計画

1	XⅢ 滋養強壮保健薬 ⑨その他(ビオチン、葉酸)、(b)カルシウム成分
2	(c)アミノ酸成分①システイン ②アミノエチルスルホン酸 ③アスパラギン酸ナトリウム、(d)その他の成分
3	3) 代表的な配合生薬等、主な副作用 ・生薬成分(a)～(f) ・漢方処方製剤 4) 相互作用、受診勧奨
4	XⅤ 公衆衛生用薬 1消毒薬 1) 感染症の防止と消毒薬、2) 代表的な殺菌消毒成分、取り扱い上の注意等 (a)手指・皮膚、器具等の殺菌・消毒に使用する成分
5	(b)専ら器具、設備等の殺菌・消毒に用いられる成分、
6	2 殺虫剤・忌避剤 1) 衛生害虫の種類と防除 (a)ハエ (b)蚊、(c)ゴキブリ
7	(d)シラミ (e)トコジラミ (f)ノミ (g)イエダニ、ツツガムシ (h)屋内塵性ダニ
8	2) 代表的な配合成分・用法、誤用・事故等への対処 (a)有機リン酸系殺虫成分、(b)ピレスロイド系殺虫成分 (c)カーバメイト系殺虫成分
9	(d)有機塩素系殺虫成分 (e)昆虫成長阻害成分 (f)その他の成分 ①殺虫補助成分 ②忌避成分
10	●主な剤形、用法 (a)噴霧剤 (b)燻蒸剤 (c)毒餌剤 (d)蒸散剤 (e)粉剤・粒剤 (f)乳剤・水和剤 (g)油剤 【一般的な留意事項】
11	XⅥ 一般用検査薬 1 尿糖・尿蛋白検査薬 1) 尿中の糖・蛋白値に異常を生じる要因
12	2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨 2 妊娠検査薬 1) 妊娠の早期発見の意義
13	2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨
14	まとめ
15	後期試験答案返却、解説等、 感染症について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	○	筆記試験で評価する
		筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント	
履修にあたっての注意		

科目名	医薬品適正安全	開講時期	1年 後期
担当講師	磯野 淳一	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①医薬品の適正使用のために必要な基本的情報について知る ②副作用情報収集制度や評価・対応する制度を知り、副作用の報告方法を学ぶ ③副作用被害者に救済制度を紹介できるように、制度の内容や手続き方法を学ぶ ④医薬品を安全に使用するために具体的報告事例を学ぶ
到達目標	①添付文書、製品表示等について記載内容を的確に理解し、購入者に適切な情報提供や相談対応ができる ②副作用報告・被害救済制度に関する基本的知識を身につける ③副作用等に関する厚生労働大臣報告が行える ④実際に副作用被害者に被害救済制度について紹介、説明できる

授業計画

1	登録販売者とは I 医薬品の適正使用情報 添付文書はどこにある 一般用医薬品の添付文書 添付文書の読み方 一般用医薬品のリスク区分
2	使用上の注意 してはいけないこと 医療用医薬品の添付文書に記載されている基本用語 添付文書の読み方 相談すること その他の注意
3	添付文書の読み方 製品表示の読み方 安全性情報など、その他の情報
4	II 医薬品の安全対策 1.医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置 2.医薬品による副作用が疑われる場合の報告の仕方
5	III 医薬品の副作用等による健康被害の救済 1) 医薬品副作用被害救済制度 2) 医薬品副作用被害救済制度等への案内・窓口紹介
6	IV 一般用医薬品に関する主な安全対策 a) アンプル入りかぜ薬 b) 小柴胡湯による間質性肺炎 c) 一般用かぜ薬による間質性肺炎 d) PPA含有医薬品 V 医薬品の適正使用のための啓発活動
7	I 添付文書 「してはいけないこと」「相談すること」
8	I 添付文書 「してはいけないこと」 ピリン系の薬剤とは 止瀉剤一覧・作用機序
9	I 添付文書 「してはいけないこと」 外用鎮痛消炎剤 特に湿布薬について メトヘモグロビン血症に関連して
10	I 添付文書 「してはいけないこと」 基礎疾患との組み合わせ 成分、牛乳によるアレルギーに関連して
11	I 添付文書 「してはいけないこと」 授乳中に避ける理由について 妊娠中に避けるべき理由について
12	I 添付文書 「してはいけないこと」 15歳未満に使用できない理由に関連して 乗物、機械の運転を避けるべき医薬品について
13	I 添付文書 「してはいけないこと」 出産予定12週以内の妊婦に避ける医薬品に関連して
14	I 添付文書 「してはいけないこと」 相談に対する登録販売者の適切な説明に関して
15	第5章 医薬品の適正使用・安全対策 の振り返り 新型コロナウイルス感染症対策と、登録販売者の関わりについて

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻 およびpower point資料	
履修にあたっての注意		

科目名	医薬品論	開講時期	2年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	微生物および抗菌薬・抗ウイルス薬の種類と作用機序について理解する。 頭痛を伴う病気、高血圧を伴う病気の症状と病態・治療方法について各々理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。

授業計画

1	微生物 （1.微生物とは、 2.微生物の構造と大きさ、 3.微生物の分布、 4.微生物の役割、 5.関連する用語）
2	ウイルス （1.ウイルスとは、 2.ウイルスの構造、 3.ウイルスの増殖、4.宿主に与える影響）
3	抗菌薬 （1.細胞壁合成阻害薬 1-1.βラクタム系薬 1) ペニシリン系、2) セフェム系、3) カバペネム系、4) モノバクタム系、1-2.グリコペプチド系薬
4	抗菌薬 （、1-3.ポリペプチド系薬、 1-4.ホスホマイシン 2.蛋白合成阻害薬 2-1.アミノグリコシド系薬、 2-2.マクロライド系、 2-3.テトラサイクリン系、 2-4.リソマイシン系、 2-5.ストレプトグラミン系、 2-6.ホリザリジン系薬、 2-7.クロラムフェニコール系）
5	抗菌薬 （3.DNA・RNA合成阻害薬 3-1.キノロン系薬、 3-2.フルオロキノロン系薬、 3-3.S-T合剤、 4.細胞膜障害薬 4-1.ポリペプチド系薬、 4-2.ダブトマイシン）、 抗ウイルス薬 【1.抗ウイルス薬（抗ヘルペスウイルス薬、抗サイトメガロウイルス薬、抗インフルエンザウイルス薬、
6	抗RSウイルス薬、抗HIV薬、抗肝炎ウイルス薬）、 2.抗ウイルス療法薬（1.インターフェロン、 2.免疫グロブリン）】
7	抗真菌薬 （1.真菌とは、 2.深在性真菌治療薬、 3.深在性・表在性抗真菌薬、 4.表在性抗真菌薬、 5.ニューモシス肺炎治療薬、 6.代表的病原真菌に対する治療薬、 7.抗真菌薬の薬物相互作用）、 抗菌薬と食品の相互作用、
8	処方比較（抗菌薬）、 医薬品選択のポイント
9	処方比較（抗菌薬）、 医薬品選択のポイント
10	症状と病態（頭痛を伴う病気）
11	症状と病態（頭痛を伴う病気）
12	症状と病態（頭痛を伴う病気）
13	症状と病態（高血圧を伴う病気）
14	いままでの復習
15	後期試験答案返却、解説等

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	「家庭の医学」第3版（成美堂出版）、プリント
履修にあたっての注意	

科目名	医薬品概論	開講時期	1年 前期
担当講師	磯野 淳一	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①医薬品、副作用、情報の入手と提供の概要 ②医薬品の効果、副作用に影響を与える要因 ③適切な医薬品選択と受診勧奨の概要 ④薬害の歴史
到達目標	①医薬品の本質、効き目や安全性に影響を与える要因等について理解する ②購入者等から医薬品を使用しても症状が改善しないなどの相談があった場合には、医療機関の受診を勧奨するなど、適切な助言ができる ③薬害の歴史を理解し、医薬品の本質を踏まえた適切な販売等に努めることができる

授業計画

1	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは
2	I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 クスリとは 薬物の体内動態（薬動力学）を学ぶ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品 セルフメディケーション
3	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用
4	3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ 抗ヒスタミン薬、アルコールと薬の関係 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者
5	4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 d)母乳を与える女性（授乳婦） e)医療機関で治療を受けている人等
6	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
7	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
8	2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 b)スモン訴訟 c)HIV訴訟 d)CJD訴訟
9	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは 登録販売者と薬剤師の違い I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 処方薬と市販薬の違い
10	OTC医薬品とは スイッチOTC医薬品とは セルフメディケーション 2) 医薬品のリスク評価 セルフメディケーション この薬、たくさん飲めば
11	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用 3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ アルコールと薬の関係
12	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 妊婦が避けるべき成分 d)母乳を与える女性（授乳婦）
13	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
14	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
15	販売時のコミュニケーション 第1章 医薬品概論 の振り返り

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻 およびpower point資料
履修にあたっての注意	

科目名	試験対策ゼミ	開講時期	2年 前期
担当講師		区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	15 225時間

学修内容	登録販売者試験の過去問題の演習。傾向と対策、問題の解説。
到達目標	登録販売者試験の合格を目標とする。

授業計画

1	別紙 予定表に基づき過去問題の演習。
2	章ごとに問題の解説。
3	第1・2・4章：野村恵子
4	第5章：真砂秀夫
5	第3章：曇亮平・齋藤絵美
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	不正解の問題を復習をする。	
使用教材	過去問題プリント/登録販売者試験 受験対策共通テキスト 上巻・下巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	漢方概論	開講時期	2年 前期
担当講師	前田 恵里	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	漢方医学の歴史、漢方医学の基礎概念（陰陽、虚実、表裏、寒熱、気血水、六病位、五臓）、漢方の診察法（望診、聞診、問診、切診）、漢方医学の診断（証）、漢方処方製剤を構成する生薬個々の薬理作用や副作用、さらに漢方製剤の薬効や副作用の知識を身につける。また、これらの知識を漢方処方製剤及び生薬製剤販売（薬剤の選択と服薬指導）へ応用する力を修得する。
到達目標	一般用医薬品で使用されている漢方処方製剤や生薬について理解するため、漢方医学の考え方や、代表的な漢方処方製剤の適応についての基礎知識を修得する。また、購入者のニーズに即した漢方処方製剤や生薬を説明、紹介する上での知識を身につける。

授業計画

1	漢方総論①：漢方薬の概要、漢方医学の歴史
2	漢方総論②：病態と治療（陰陽、虚実、表裏、寒熱、気血水、六病位、五行論）
3	漢方総論③：診察法（望診、聞診、問診、切診）、証のとらえ方
4	生薬製剤：代表的な生薬の生薬成分
5	漢方処方各論①：方剤学(桂枝湯類、麻黄剤、柴胡剤、附子剤、人参湯類等)
6	漢方処方各論②：方剤学（気剤、駆瘀血剤、利尿剤、代表的な副作用と相互作用）
7	漢方薬の服薬指導①（剤型、服用量、服薬時間、保管方法）
8	適切な薬剤の選択①（感冒・精神神経に作用する薬）
9	適切な薬剤の選択②（呼吸器・胃腸に作用する薬）
10	適切な薬剤の選択③（循環器・泌尿器・婦人薬）
11	適切な薬剤の選択④（アレルギー・皮膚・その他）
12	生薬製剤・漢方製剤のまとめ
13	漢方薬の臨床応用：来局者対応①（薬剤の選択）
14	漢方薬の臨床応用：来局者対応②（薬剤の選択）
15	総合演習、トリアージ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	○	筆記試験で評価する
		筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	配布資料を活用し、授業内容の要点を復習して理解する	
使用教材	現代医療における漢方薬改訂第3版：南江堂	
履修にあたっての注意		

科目名	人間栄養学	開講時期	1年 前期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル・水の構造と働きについて理解し、栄養と健康の関わりについて学ぶ。日本人の食事摂取基準(2020年版)を理解する
到達目標	各栄養素の構造と機能・栄養と健康の関わりについて説明できる。日本人の食事摂取基準(2020年版)を説明できる。

授業計画

1	栄養学概説
2	栄養素の機能 糖質
3	栄養素の機能 脂質
4	栄養素の機能 たんぱく質
5	栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンA)
6	栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンD)
7	栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンE・K)
8	栄養素の機能 水溶性ビタミン(ビタミンB1・B2)
9	栄養素の機能 水溶性ビタミン(ビタミンB6・B12・C)
10	栄養素の機能 水溶性ビタミン(葉酸・ナイアシン・パントテン酸・ビオチン)
11	栄養素の機能 ミネラル(カルシウム・リン・マグネシウム)
12	栄養素の機能 ミネラル(鉄・ナトリウム)
13	栄養素の機能 水
14	日本人の食事摂取基準総論 概念・指標・活用
15	日本人の食事摂取基準各論 各論 ライフステージ別の活用

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版
履修にあたっての注意	

科目名	生理学	開講時期	1年 後期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を理解する。
到達目標	身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を説明できる。

授業計画

1	身体の構造
2	身体の器官の機能
3	加齢に伴う器官系の機能の変化
4	消化器系の構造
5	管腔内消化
6	膜消化・吸収
7	栄養素別の消化・吸収 糖質
8	栄養素別の消化・吸収 たんぱく質
9	栄養素別の消化・吸収 脂質
10	栄養素別の消化・吸収 ビタミン・ミネラル
11	自律神経とストレス 自律神経
12	自律神経とストレス ストレス
13	内分泌
14	ホルモンの構造と作用機序
15	ホルモンの分泌調節機構

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版
履修にあたっての注意	

科目名	生化学	開講時期	2年 前期
担当講師	南雲 恵理子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間
学修内容	人間をはじめ全ての動植物が生活を営む中で、生体内では多様な反応が絶え間なく起こり、相互に働いている。生化学はその反応のメカニズムを理解する学問である。 講義では、糖質、脂質、タンパク質等の代謝、酵素反応のしくみなどについて学習する。		
到達目標	生体内での糖質、脂質、タンパク質の代謝の概要を理解する。		

授業計画

1	炭水化物、糖類の定義、分類	
2	脂質の定義、脂質の分類、脂肪酸	
3	アミノ酸、タンパク質の構造	
4	酵素の特徴	
5	核酸の基本構造、塩基	
6	DNA (複製、転写、翻訳)	
7	解糖系	
8	クエン酸回路	
9	電子伝達系	
10	ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路	
11	脂肪酸のβ酸化	
12	脂肪酸の合成	
13	リポタンパク質の輸送	
14	アミノ酸の代謝、アミノ基転移反応	
15	酸化的脱アミノ反応、尿素回路	

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	食品衛生学	開講時期	1年 前期
担当講師	狩野 こそ恵	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	食品などの安全性や衛生管理について学ぶ
到達目標	食品などの安全性や衛生管理に関する知識を身につける

授業計画

1	食品の安全とは
2	食品のリスク分析
3	リスク評価
4	リスク管理、リスクコミュニケーション
5	衛生管理
6	適正製造規範（GMP）
7	トレーサビリティ
8	遺伝子組み換え食品
9	添加物①
10	添加物②
11	食薬の区分
12	医薬品かどうかの基準
13	健康食品
14	健康食品と添加物、ハーブ
15	健康食品のリスクコミュニケーション

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー（第一出版）	
履修にあたっての注意		

科目名	健康食品学	開講時期	2年 後期
担当講師	狩野 こず恵	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	健康食品の制度や表示について学ぶ。
到達目標	保健機能食品、特別用途食品、いわゆる健康食品の違いについて理解する。

授業計画

1	栄養機能食品①
2	栄養機能食品②
3	機能性表示食品①
4	機能性表示食品②
5	特別用途食品①
6	特別用途食品②
7	健康食品の全体像
8	特定保健用食品①
9	特定保健用食品②
10	保健機能食品①
11	保健機能食品②
12	いわゆる健康食品
13	健康食品のまとめ
14	植物性食品について
15	動物性食品について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー（第一出版）
履修にあたっての注意	

科目名	栄養法規	開講時期	1年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品（保健機能食品・いわゆる健康食品）や医薬品にかかわる法律や制度について学習する。
到達目標	食品（保健機能食品・いわゆる健康食品）や医薬品にかかわる法律や制度について理解し、消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。

授業計画

1	食品の健康表示と安全性のための法律
2	健康増進法について（健康日本21、受動喫煙の防止）
3	健康増進法について（誇大広告の禁止）
4	食品衛生法について（食品添加物、いわゆる健康食品の健康被害）
5	食品衛生法について（残留農薬、衛生管理）
6	食品安全基本法について（食品安全委員会の設置）
7	食品安全基本法について（安全性の確保、リスク管理）
8	医薬品医療機器法（食薬区分）
9	景品表示法（不当表示等）
10	JAS法（農林物資の規格等）
11	食品表示法（消費者庁の設置）
12	食品表示法（食品表示基準）
13	海外での関連法規（コーデックス委員会、EUの関連法規）
14	海外での関連法規（アメリカ合衆国・アジアの関連法規）
15	今後の改正について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、食品や健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	生活習慣病概論	開講時期	2年 前期
担当講師	茂木 健	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の健康の状況、生活習慣病の概要を学ぶ。 ・主な生活習慣病の病態を学ぶ。 ・生活習慣の健康への影響を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の健康の現状を説明できる。 ・主な生活習慣病を挙げることができ、その病態、原因を理解している。 ・喫煙、飲酒、ストレスなどの生活習慣の指導ができる。

授業計画

1	生活習慣病とは
2	寿命と人口構成の変化
3	食生活や生活環境の変化
4	疾病構造の変化
5	疾病の発症における遺伝的要因と環境要因
6	生活習慣病の概念と特定健康診査・特定保健指導
7	生活習慣病 各論（肥満、メタボリックシンドローム）
8	生活習慣病 各論（脂質異常症、動脈硬化、高尿酸血症）
9	生活習慣病 各論（高血圧症）
10	生活習慣病 各論（糖尿病）
11	生活習慣病 各論（CKD）
12	生活習慣病 各論（COPD）
13	生活習慣病 各論（がん、認知症）
14	タバコとアルコールの健康影響
15	生活習慣と疾患（睡眠、ストレス、紫外線、口腔ケア）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	NR・サプリメントバイザ-必携 第5版 第一出版	
履修にあたっての注意		

科目名	臨床栄養学	開講時期	2年 後期
担当講師	茂木 健	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	<ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学の基礎を学び、栄養状態の評価、栄養摂取量の設定を行う。 ライフステージ別に栄養、身体活動を学ぶ。 主な生活習慣病の病態とその栄養について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一日のエネルギー摂取量の設定ができる。 各疾患の栄養管理の基本を理解している。食品交換表を使用できる。 臨床検査の意義を理解し、その基準値と疾患の関連がわかる。

授業計画

1	栄養アセスメントと栄養療法
2	エネルギー設定と栄養素配分
3	栄養投与経路
4	ライフステージと栄養(小児期、妊娠期、高齢期)
5	疾病予防と健康寿命
6	がんの予防
7	アンチエイジング、長寿医学
8	病態栄養 各論（肥満症、糖尿病、動脈硬化症、高血圧症、腎疾患）
9	病態栄養 各論（慢性閉塞性肺疾患、肝疾患、炎症性腸症候群、がん）
10	糖尿病治療のための食品交換表
11	医療施設で用いられる臨床検査
12	身体活動と栄養
13	生活習慣病の予防と治療における運動療法
14	ライフステージと身体活動
15	スポーツ医学と栄養

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	NR・サプリメントバイザ-必携 第5版 第一出版
履修にあたっての注意	

科目名	臨床薬理学	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	医薬品の体内動態について正しく理解し、その作用（生理機能の変化）における食品やサプリメントとの相互作用について知る。
到達目標	サプリメントを取り扱う際、医薬品との併用・相互作用などのリスクに関する情報を消費者に対し行えることを目標とする。

授業計画

1	医薬品の定義（目的・条件）
2	医薬品のプロセスと分類
3	医薬品の作用機序（作用部位と生理反応）
4	受容体（受容体を介して作用するアドレナリン、インスリン、ヒスタミン等）
5	イオンチャネル（チャネルを介して作用する医薬品）
6	酵素（酵素を介して作用する医薬品）
7	副作用について（用量作用曲線、プラセボ、生理機能の変化）
8	医薬品の代謝・吸収
9	医薬品の分布・排泄
10	医薬品の経路（経口、経皮、口腔、直腸投与）
11	医薬品の剤形（内用剤、外用剤、注射剤）
12	医薬品の相互作用（吸収・分布の過程における相互作用）
13	医薬品の相互作用（代謝・排泄の過程における相互作用）
14	食品と医薬品の相互作用（グレープフルーツジュース、ビタミンKなど）
15	食品と医薬品の相互作用（チラミン、ミネラルなど）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版 / 薬が見えるVOL.1	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	食品機能概論	開講時期	1年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品に含まれる成分の機能について学習する。
到達目標	食品機能の科学的根拠を学んだうえで、消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。

授業計画

1	NRサプリメントアドバイザーとは
2	アドバイザースタッフの役割
3	食品機能の科学的根拠（動物・ヒト試験）
4	保健機能食品の科学的根拠 おなかの調子を整える食品
5	おなかの調子を整える食品
6	高コレステロール・高血圧適する食品
7	ミネラル・骨・歯に関する食品
8	血糖値に関する食品
9	血中中性脂肪・体脂肪に関する食品
10	食品のリスク
11	特定保健用食品の安全性
12	食経験からみた安全性
13	動物・ヒト試験における安全性
14	関与成分における安全性
15	食品の安全性・有効性に関する情報

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、食品や健康に関する情報に関心を持つ。
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。

科目名	行動科学論	開講時期	2年 前期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付ける方法と行動変容について学ぶ。
到達目標	行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付け、行動変容につながるカウンセリングができるようになる。

授業計画

1	行動科学と現代心理学
2	行動科学と学習理論 学習理論
3	行動科学と学習理論 古典的条件付け
4	行動科学と学習理論 道具的条件付け
5	行動科学と学習理論 条件付けにおける強化と消去
6	行動科学と学習理論 行動変容
7	行動科学と行動療法
8	認知行動療法
9	保健指導を支える心理学の理論 理論横断モデル
10	保健指導を支える心理学の理論 健康信念モデル
11	行動変容と心理学的技法
12	カウンセリングの方法
13	認知行動療法の生活習慣病へのアプローチ
14	カウンセリング技法によるアプローチ
15	認知行動療法の応用による心疾患へのアプローチ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版	
履修にあたっての注意		

科目名	NR対策ゼミ	開講時期	2年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。 各章の対策問題による試験対策。
到達目標	NR・サプリメントアドバイザー試験の合格を目標とする。

授業計画

1	オリエンテーション・復習・開講にあたって配信講座
2	NRサプリメントアドバイザーの役割と倫理（配信講座/問題）
3	基礎の生理学（配信講座/問題）
4	基礎の生理学（配信講座/問題）
5	基礎の生化学（配信講座/問題）
6	基礎の生化学（配信講座/問題）
7	人間栄養学（配信講座/問題）
8	人間栄養学（配信講座/問題）
9	生活習慣病概論（配信講座/問題）
10	生活習慣病概論（配信講座/問題）
11	臨床栄養（配信講座/問題）
12	臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）
13	臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）
14	食品安全衛生学（配信講座/問題）
15	食品安全衛生学（配信講座/問題）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	NR対策ゼミ	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	4 60時間

学修内容	NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。 各章の対策問題を解説。
到達目標	NR・サプリメントアドバイザー認定試験の合格を目標とする。

授業計画

1	健康食品（通信講座/問題）
2	臨床薬理学（通信講座/問題）
3	食品機能の科学的根拠（通信講座/問題）
4	行動とカウンセリング（通信講座/問題）
5	認定試験対策問題：生理学
6	認定試験対策問題：生化学
7	認定試験対策問題：人間栄養学
8	認定試験対策問題：生活習慣病概論と臨床栄養
9	認定試験対策問題：臨床検査と身体活動と栄養
10	認定試験対策問題：食品安全衛生学
11	認定試験対策問題：健康食品
12	認定試験対策問題：臨床薬理学
13	認定試験対策問題：食品機能の科学的根拠
14	認定試験対策問題：行動科学とカウンセリング
15	認定試験対策問題：国内外の関連法規

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第5版	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	医療事務	開講時期	1年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	3 45時間

学修内容	医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度 薬局の基礎知識、調剤報酬算定方法、レセプト作成方法
到達目標	医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度、薬局の基礎知識についての知識を習得する。また、調剤報酬の算定方法を理解できるようにする。

授業計画

1	医療機関と薬局（医療機関、薬局の役割や関係について）
2	医療保障制度（医療保障制度の体系、医療保険制度と種類）
3	保険給付（保険給付の範囲と種類、給付割合と患者負担、高額療養費）
4	調剤薬局での事務の仕事（日常業務、請求事務）医療事務スタッフの心構え
5	公費負担医療（制度と概要、その他助成制度、レセプトの記載）
6	労災保険、介護保険 医療事務制度の理解度チェック
7	薬局の基礎知識、調剤報酬算定にあたって（処方せんの基礎知識）
8	薬剤の基礎知識、算定の基礎（記載内容、区分、投与量、服用使用方法）
9	算定のあたっての基礎知識（受付回数、1剤、1調剤についての理解）
10	調剤報酬の算定 調剤基本料 薬剤料 電卓機能
11	調剤料の算定（内服薬、内服用滴剤、屯服薬、外用薬、注射薬）
12	調剤料の加算について①
13	調剤料の加算について②
14	薬学管理料について 調剤報酬算定のまとめ
15	薬の基礎知識、医療事務員の接遇マナー

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	調剤薬局事務講座テキスト
履修にあたっての注意	

科目名	医療事務	開講時期	1年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	調剤報酬算定のまとめ、レセプト作成、点検、学科問題、資格試験対策
到達目標	調剤報酬算定など、調剤事務管理士に必要な知識を習得し、調剤事務管理士試験合格を目標とする。

授業計画

1	レセプトの作成 レセプトの基礎知識 記入方法 点検
2	薬価基準表 レセプト作成練習問題 解説
3	レセプト作成練習問題 解答解説
4	レセプト点検問題の解き方
5	レセプト点検問題の練習 解答解説
6	学科問題の解き方 テキストからの検索
7	学科問題の練習 解答解説
8	レセプト作成 処方せん1枚の場合
9	レセプト作成 処方せん2枚受付の場合
10	調剤試験問題① レセプト点検、レセプト作成、学科問題
11	調剤試験問題② レセプト点検、レセプト作成、学科問題
12	調剤試験問題③ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
13	調剤試験問題④ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
14	調剤試験問題⑤ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
15	医療事務員の受付接客について 日本の医療費について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	調剤薬局事務講座テキスト	
履修にあたっての注意		